

石巻ボランティア

7月18日(土)、38名の生徒と3名の教員が宮城県石巻市の震災仮設住宅団地を訪問し、住民の方々と交流しました。

東日本大震災から4年4か月が経過しましたが、大津波による甚大な被害を受けた石巻市では、未だに町のあちこちに津波の被害を受けた建物が残っており、完全な復興まで程遠いことを実感しました。

今回は、「仮設向陽団地」と「仮設蛇田中央団地」を訪問しました。到着後、「NPO法人 国境なき奉仕団 チーム山形 東日本大震災復興支援団」の方々と合流し、炊き出しのいも煮づくりや振る舞いの手伝いを行うとともに、集会場の清掃や敷地内の草むしりに汗を流しました。

午後からは、それぞれの集会場で住民の方々と交流会を行いました。生徒の懸命の呼びかけもあり、たくさんの方々が参加してくださいました。これまでの訪問で本校生と顔見知りになった住民の方々も多く、感動の再会の場面も見られました。集まってくれた子どもたちと一緒に絵を描いたり、グループ対抗クイズ大会で博識ぶりを披露したり、お菓子を食べながらお話をし、住民の方々と懇親を深めました。最後は、「WAになっておどろろ」を全員で歌い、集まってくくださった方々に感謝の気持ちを伝えました。

3年生が参加しての活動は今回で最後となります。これからは、2年生と1年生が引き継ぎ、住民の方々との「絆」を大切に活動を継続してくれることでしょう。

